

在ペナン総領事・町田です。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

令和7年（2025年）11月が終わりました。

11月7日の民主党岡田議員の質問に対する「存立危機事態」についての高市総理答弁に対して中国が過激に反応する中で、日中間に緊張関係が存在しています。総理答弁は、平和安全法制の中での法的解釈を述べたものであり、日本政府として撤回する考えがあるとは承知しておりません。国際情勢及び国内政治情勢は、10年以上前はもとより1年前と比べても様変わりであり、我が国の唯一の同盟国である米国やその他同志国と我が国の間の関係が強固であるところ、中国の過激な反応も奏功していない印象です。ヨハネスブルグで行われたG20首脳会議での外交についても順調に推移した印象です。

ペナンについて言えば、戦後80年にあたる本年も11月11日（第一次世界大戦終結日）11時11分に、アヤル・イタムにある戦時の華人殉難碑で、連邦・ペナン州の華人政治家、華人社会代表、在ペナン中国総領事も出席の上で慰靈祭は開催されました。しかし、我が国を名指しで非難する発言はみられませんでした。当館の業務の一丁目一番地は、邦人の皆様がペナン等において安心・安全に過ごされること及び日本企業が円滑に操業されることを支援することあります。マレーシアにおける対日感情は極めて良好であり、上記に起因する在留邦人や日本企業に対する脅威度の向上は現段階では感知していないし、当館に対して脅迫メールの着信等もありません。万が一、邦人の皆様に影響を及ぼしうる特異事例などがあれば共有したいと思います。

高市新政権の経済政策については、11月21日に「『強い経済』を実現する総合経済対策～日本と日本人の底力で不安を希望に変える～」が閣議決定されることで形になりました。この経済対策は、我が国経済は「デフレではない」その先の段階への脱却しつつある中、再びデフレに後戻りしない「成長型経済」への転換点にあるとの認識の下、いま必要なのは将来世代への責任を果たす「責任ある積極財政」であり、大胆かつ戦略的な「危機管理投資」と「成長投資」を進め、「暮らしの安全・安心」を確保するとともに、雇用と所得を

増やし、潜在成長率を引き上げ、「強い経済」を実現するために策定されたものです（この経済対策については、日本政府HPで読むことができます。）。

https://www5.cao.go.jp/keizai1/keizaitaisaku/1121_economic_measures.pdf

<https://www5.cao.go.jp/keizai1/keizaitaisaku/keizaitaisaku.html>

<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/sougoukeizaitaisaku2025/index.html>

この総合経済対策の三つの柱は、「生活の安全保障・物価高への対応」「危機管理投資・成長投資による強い経済の実現」「防衛力と外交力の強化」です。上記総合経済対策発表に先立つ11月4日の「日本成長戦略本部」会議において、茂木外務大臣は、「外務省は、日本の国力の源泉である経済力の強化のための経済外交を推進し」「具体的には、日本企業の海外展開や日本の技術力を外交面で後押しし、市場やイノベーションの創出に貢献し」「ルールに基づく自由で公正な国際経済秩序の維持・強化」及び「サプライチェーンの強靭化や経済的威圧への対応、重要・新興技術の保全・促進など、経済安全保障の課題」に取り組む等述べています。これは、上記の総合経済対策にも合流していく考えであります。

10月の新政権発足後、外交・経済の分野において日本政府においては格段のスピード感をもって政策が進んでいる感があります。ペナンにおける私共の目標の一つは「日本とマレーシア・ペナンをより良く繋げる」ということであり、また、「在留邦人の皆様が安心・安全に生活することを支援する」「日本の技術・知見がペナンなどの社会問題の解決する」ということあります。現在の日本本国での動きをどのように当地に落とし込むかを考えて、動いていきたいと考えています。

ペナン及び北部4州の政治、経済情勢について言えば、各州において2026年度予算の計上がなされております。このうち、ペナンについては、NCE R（北部回廊経済地域。ペナン、ペラ、ケダ、ペルリス）の45%の国内総生

産及び47%の投資を達成した由ではあり、民間の強さを踏まえて、IT企業の発展、グルメ・シティとしての確立、観光面での進展等は見られますが、恒常的な州政府予算の赤字状況は変わらず、また、水資源の確保についてはペラ州との間で40年に亘って年間2.1リンギットを支払って浄水を購入するなど、課題は残っています。ペナン州政府は、連邦政府と州政府との間での歳入分配モデルの再検討するための国レベルでの委員会設置を求めておりますが、その帰趨に注目していきたいと思います。

11月は、在ペナン総領事館の管轄地域で例年の通り、大雨による水害が発生しました。タイやインドネシアでの水害に比べると被害者数で見れば激甚度や深刻さは限定的なものでした。しかし、在ペナン総領事館管内には、クランタンを始めとして水害には脆弱な地域が存在しているため、今後とも、必要に応じ、水害情報については共有していきたいと思います。

当館が管轄する北部6州のうち最も重要なペナン州の情勢を含め、政治の動向を把握すると共に、どのような結果になろうとも、日本の存在感を高める努力を続けていかなくてはならないと思います。

今後とも、我々日本人は、世界の情勢を曇りなき眼で見据え、我々に影響のある事象に耳をそばだて、主張すべきは主張して日本の利益を確保しなくてはならないと思います。総領事館もペナンにおいて、微力ながら日本のためにしっかり働いていきたいと思います。私は、日本の安全・安心の確保の為に日夜働いておられる皆様を陰ながら支持しております。

以下、11月の総領事（館）の主な活動報告をいたします。なお、これら活動については別途総領事Xでも紹介しておりますので、併せ御笑覧ください。

ペナン外への出張等については、

11月8日（土）、ケダ州シントック（タイ国境）のマレーシア北部大学（UUM）で開催された「LeadersMind 2025」に出席しました。10日～11日、東レ科学財団の授賞式（11日）に出席するため、クアラルンプールに出張しました。

15日（土）、ペラ馬日友好協会の年次夕食会参加のためにイポーに出張しました。

27日（木）、ペトロナス工科大学に訪問し、大学概況を伺うために、ペラ州中部のスリ・イスカンダールに日帰り出張しました。29日（土）、ペラ日本人補習授業校での学習発表会を見るために、イポーに日帰り出張しました。

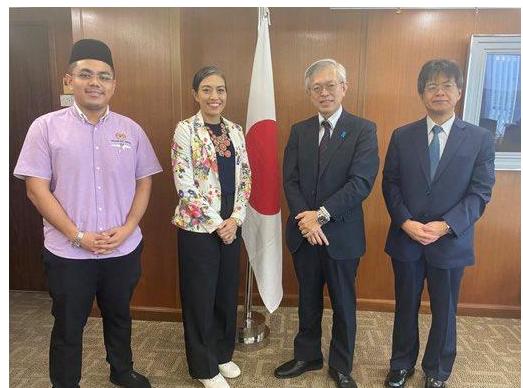
政治・行政・経済面では、

11月4日（火）、ペナン州のラムリ・ナタリブ州長に表敬しました。大変気さくなお人柄であり、黒江首席領事と共に、様々な案件について1時間じっくりとお話しすることができました。ペラ州首席大臣、連邦下院議長を務めて、著述に勤しんでおられたところで本年5月に州長に就任されました。84歳という高齢で公務に邁進されていることには感銘いたしました。6日（木）、バト・カワンのTOWAM様にお邪魔し、お仕事について伺いました。半導体産業の中でしっかりと存在感を示しておられます。今後とも、当地日本企業の自状況を把握し、問題点があれば当地当局に申し入れる体制を強化したいと思います。7日（金）、ペナン州EXCO（インフラ等担当）ザイリル・キール・ジョハリ氏を訪問し、先の大坂・関西万博に際しての日本出張から得た成果等についてお話を伺いました。ザイリル氏は当地の一部有識者からは次世代ペナン州DAPのホープの一人です。水資源問題については、「日本水フォーラム」の提案する地下水資源の追求をすると明言していました。日本発の技術によるペナンの経済・社会問題の解決に寄与する一歩になれば素晴らしいと思います。同日、ペナン州選出の連邦下院議員（DAP所属）のシェリーナ・アブドル・ラシッド氏のご訪問を受け、日本・マレーシア関係等について意見交換しました。シェリーナ議員とは、タイ寺院での行事でお目にかかったものです。観光振興やロヒンギヤ「難民」の件などについて親しく

意見交換しました。



(↑ラムリ・ナタリブ・ペナン州長表敬)



(↑シェリーナ・ア卜ドル・ラシッド議員との懇談)

10日（月）、ロウ・チュー・キアン・ペナン州議会議長に表敬しました。ロウ議長との間では、最近の総領事館の活動や日本外交の動き等について意見交換しました。この中で、可能であれば、明年3月か4月に訪日をしたいという話がありましたので、今後、詰めていきたいと思っています。ロウ議長はペナン州における最も高位の人物の1人であり、日本との関係を強化していただくのは有益と考えております。12日、当地領事団主催のタイ総領事・カナダ名譽領事を歓迎し、英國名譽領事を送別する夕食会に出席しました。当地の名譽領事は医師、弁護士、ビジネスマンなど当地で有力な地位と繋がりを有している人物であり、今後とも関係強化に努めていくことにしています。18日（火）、ペナンにおける「医療ツアリズム」を振興するための病院等の団体である「Penang Centre for Medical Tourism（P MED）」一行の表敬を受けました。この表敬においては、安価ながらも良質な医療サービスを提供しているとされるペナンにおける医療ツアリズムの主要な相手は圧倒的にインドネシアであり、医療水準の高さから日本は主要なターゲットになっていません。しかし、「P MED」メンバーは、MM2H滞在者を含む当地在留邦人への医療サービスを提供に前向きではありました。在留邦人の皆様が安心・安全に当地で生活をされることに努めるのは総領事館の優先的な課題の一つです。当館としても、当地の医療事情をより深く把握するために、「P MED」メンバーとの関係を深めていきたいと考えています。



(↑ロウ・ペナン州議会議長への表敬)



(↑Penang Centre for Medical Tourism の表敬)

21日（金）、東京都中小企業振興公社の皆様とオンラインで意見交換しました。同公社は、昭和41年（1966）年に発足、元々都内の下請け企業の振興を目的としていた由ですが、現在、潤沢な予算を背景に600名超の職員が「経営相談」、「助成金」、「販路拡大」、「人材育成」の分野において都内中小企業の支援を実施しているとのことです。東南アジア等海外への進出支援も実施しているところ、「チャイナ・プラス・ワン」の観点からこれまでベトナムについての実績・問い合わせが多かったとのことです、マレーシアについても問い合わせが増えてきていることから、来月、KL及びペナンにリサーチ出張にいらっしゃるということです。24日（月）、ペナン半島部のJLLマレーシア社にお邪魔し、会社概要についてお話を伺いました。元々は、ペースメーカー等の精密医療機器の輸入を専門とする商社としてスタートした同社は、その後、自社独自の精密医療機器の製造を開始し、2019年にマレーシアに進出しました。医療分野については、ペナン州政府が優先分野として外国企業の誘致を進めているところ、今回お話しを聞くことで同業界について勉強することができました。28日（金）、北部回廊経済地域（NCEC）振興公社（NCIA）のモハマド・ハリスCEOを表敬しました。当方からは、ペナンを含むNCEC各州が経済的に発展していくためには、相互に協力できるところは協力していくことが重要とのかねてからの考えを引き続き示しました。先方からは、北部4州における連結性強化の重要性に触れつつ、日本企業との間でのつながりを持ちたいという考え方を表明しました。同日、ペナン市内にお

けるカナダ名誉領事の就任歓迎夕食会に出席しました。また、同日、当地インド商工会議所主催のディーパバリ・オープンハウスに出席しました。すぐには成果には直結しませんが、様々な行事に顔を出すことで、人脈を広げていきたいと思います。



(↑ J L L 社様ご訪問)



(↑ N C I A 訪問)

今後とも、当地行政機関等と関係を深めてその課題を把握し、それを当地の日本人・日本企業の皆様の役に立てることができればと思っています。

日本人社会の皆様との関係では、

11月15日（土）、ペラ州イポーで開催された「ペラ馬日友好協会」の年次夕食会に出席しました。国際交流基金KJL事務所の松永副所長も出席されていました。新型コロナのために5年間開催されなかったにも関わらず、200名程度の参加者があり、大変盛況でした。会場では、イポー市と姉妹都市関係にある福岡市からお越しの大和池坊流教授・佐々木常盤様の作品も展示されておりました。イポーでの花材も利用した大作が夕食会に華を添えていました。「ペラ馬日友好協会」では長年地道に現地での日本語教育を実施しているところ、総領事館も国際交流基金と連携の上で側面支援を試みたいと思います。

22日（土）、ペナン日本人補習授業校における「学習発表会」に出席しました（於：Disted College）。同補習授業校の幼稚部から中学2・3年合同チームまでの9チームが漢字や朗読劇、自分たちが望むロボットの発表などを生き生きと行なっていました。インター校などに通いながら土曜日に日本語・算数／数学の勉強に頑張っているお子さんの姿は素晴らしい、それを支援する運営委員会や先生方のご尽力は改めて素晴らしいと感じました。25日（火）、ペナン日本人会の定例理事会に出席しました。この理事会においては、最近のマレーシア北部水害、日本人会魅力向上・会員増加、日中関係等について発言しました。過去1年間の教訓・反省を活かし、今後とも、日本企業支援等に邁進して参ります。29日（土）、ペラ日本人補習授業校における「学習発表会」に出席しました。この補習校の児童生徒は14名（最近2名増）と小規模ですが、和気藹々とした雰囲気でいつも心が温まります。今後とも、政府支援を含めた支援を続けていきます。



（↑ペラ馬日友好協会年次夕食会の模様）

領事事務を始めとした日本人社会へのサービスは総領事館業務の「一丁目一番地」です。今後とも精一杯励んでまいりますので、引き続きご指導、ご鞭撻お願いたいたします。

文化交流・報道・学術交流関係では、

11月2日（日）、ペナン州議会のジョセフ・ウン（Josef Ng）議員のお誘いを受け、島内のアヤル・イタム地域の「Heritage Walk」に参加しました。アヤル・イタム地域は近傍にペナン・ヒルや極楽寺を抱え、華人、マレー人、インド人の伝統文化を残す地域でした。英國統治下の騒乱を抑えるのに力のあったスーアー派のイスラム導士の子孫、ミシュラン・ライターの方など多彩な方とお会いできました。今後に活かしたいと思います。3日、当地日本企業関係者の方々との間で、当地での文化事業等について意見交換しました。4日（火）、MJS（マレーシア日本協会）のチュー会長等の来訪を受け、16日の「秋祭り2025」等について意見交換しました。「秋祭り2025」は「Fall in love with Japan」との副題が付き、今年3回目の開催となります。資金面での問題もあるということで今後どのような側面的支援ができるか検討したいと思います。5日（水）、国際交流基金KL事務所の塚本所長とオンライン会議をしました。①基金小規模支援プログラムの広報強化、②「日本語パートナー」の活用、③日本映画祭の充実について意見交換しました。7日（金）、在ペナン・タイ総領事館の後援でペナン市内ホテルにて開催された「Loy Krathong Celebration & Amazing Thai Cuisine Festival 2025」に招待を受けて出席しました。タイは伝統的な友好国であり、今後ともペナンでも関係を深めていきたいと思います。8日（土）、ケダ州タイ国境地帯のマレーシア北部大学（UUM）で出席した「LeadersMind 2025」の（何故か）大学のランキングパネルに参加しましたが、私からは、政官学の連携によって社会に貢献することとの重要性について述べました。



（↑「Heritage Walk」の面々と）



（↑Loy Krathong Celebration & Amazing Thai Cuisine Festival 2025にて）

Amazing Thai Cuisine Festival 2025にて）

11日（火）、KLで実施されたマレーシア東レ科学財団の第32回授賞式に出席しました。東レさんが長年に渡り、マレーシアの科学研究・科学教育の振興に協力されてきたことに敬意を表します。12日（水）、慶應義塾大学グローバル・インスティチュートの梅嶋真樹特任教授とオンライン会議を実施しました。梅嶋先生は、マレーシア科学大学（USM）と協力しつつ、IOT社会におけるサイバー・セキュリティの強化についての共同研究を行ない、また、IECにおいては、各国と協議して日本仕様の基準の国際的な採用を目指しておられます。同日、USM社会科学部のアズミル准教授と同大学内で意見交換しました。今後、同准教授の講義において日本について日本外交等についてお話する可能性もありそうです。13日（木）、USM社会科学部のモハマッド・シャハルディン学部長（Dr. Mohamad Shaharudin Samsurijan）を訪問しました。常々から関係の深い同学部を公式に訪問して概要を伺うと共に、同大学での設置準備が進んでいる「Japan Liberal Studies」コースについての強い関心を表明しました。14日（金）、公邸において、14日～16日の”Languages and Communal Imagination in Asia: International Conference on Moving, Wayfaring and Tourism”（立教大学・サンウェイ大学共催企画）への参加者及び当地の観光関連の政府・民間・学術関係者を招いての「ハイ・ティー」を実施しました。なかなか難しいことですが、官学民の連携を形成して多面的かつ持続可能な両国間の協力を追求することは重要だと思っています。同日、ハンチャン大学において、上記国際会議の皮切りである大阪大学・宮原暁教授の東アジアにおける漢字文化についての講演を拝聴しました。15日（土）、この国際会議の第一セッションに参加しました。「アニメ巡礼」などを含む観光の様々な形についての見方を知ることは面白かったです。16日（日）、ペナン島内アヤル・イタムのショッピング・モールである「Sunshine Central」で開催された「Aki Matsuri 2025 - Fall in love in Japan」の開会式などに参加しました。ペナンにおける日本文化事業の一つとして完全に定着した感がある秋祭りを今後も応援していきます。「Sunshine Central」を経営する「Suiwah Corporation Bhd」グループの創業者一家と交流できたのも大変有益でした。17日（月）、ペナンの大学等が連合して当地の留学観光（EduTourism）を振興する「Study Penang」の一一行の表敬を受けました。10校を超えるペナンのカレッジ等は日本人学生の誘致などに関心を有しています。日本・マレーシア／ペナンの相互学術交流を促進することは共に利益のあることであり、今後とも追求ていきたいと思っています。

す。同日、U S Mの「東レビル」の中にある「Chubu-USM Japan Centre」を訪問し、副田センター長と今後の大学間交流などについて意見交換しました。同日、慶應義塾大学の梅澤特任教授とU S Mサイバー・セキュリティ・センター所長のセルバクマール・マニカム教授の訪問を受け、「Energy Resource Aggregation Business: A Detailed Study on ERAB Implementation in Malaysia; A Comprehensive Report on Securing ECONET Lite Ecosystem」報告書を手交され、今後の日本とマレーシアとの間でのエネルギー分散システムにおけるサイバー・セキュリティに関する協力等について意見交換しました。難しい話題ではありますが、日本の基準がマレーシア／A S E A Nに広がることは日本のビジネスにとっての朗報であり得るところ、今後とも色々お話を伺い、当地日本企業の皆様にも繋げていきたいと思います。なお、この意見交換では、他の案件からの類推から、市民生活の中でのサイバー・セキュリティの重要性については、若年時から教育をすることの重要性を指摘しました。



(↑マレーシア東レ科学財団表彰式にて)



(↑U S M社会科学部訪問)

(↓秋祭りにて)



(↓StudyPenang 来訪)



(↓Chubu-USM Japan Centre 訪問)



21日（金）、高知大学次世代地域創造センター地域連携課・専門員（地域人材育成担当）／理事特別補佐の川竹大輔さんびJICAクアラルンプール事務所職員のハフィズ・オスマンさんとオンライン会議をし、「よさこい研究」について意見交換しました。1991年の天皇皇后両陛下がマレーシアを訪問された際にマレーカレッジ（ペラ州クアラカンサー所在）に行幸啓される筈であったのが、インドネシアからのヘイズで取りやめになったということがありました。日本語学習者として両陛下をお迎えする役であったのが、ハフィズさんでした。その後、2006年、他国公式訪問の間にマレーカレッジに改めて行幸啓された両陛下に対して「よさこいソーラン」が披露されました。ハフィズさんでしたが、この準備にも携わり、その後は、よさこいの国内コンペで審

査委員長も務めています。川竹専門員とハフィズさんとの意見交換に耳を傾けつつ、マレーシアの高校に広がった「よさこい」の教育的効果の高さについてコメントしました（川竹専門員からは論文を後日いただきました）。また、ハフィズさんのような親日家がいることを当たり前と思わず、絶えず、若年層を含む親日家の育成に努めなくてはならないと痛感しました。27日（木）、ペラ州のペトロナス工科大学（UTP）を訪問し、モハマド・フィロウズ・アスナン学長に表敬しました。UTPは、ペラ州中部に広大なキャンパスを構える工学系私立大学であり、「技術教育と研究の最前線でより良い未来を創出」することを目標として、「生涯学習の提供」「学際的な可能性を活かすことでイノベーションを牽引し現実世界の課題に取り組むこと」「産業と社会を変革する画期的な解決策の開発」をミッションとしています。先方からの大学概要の説明を受けての意見交換の中で、当方から、11月21日閣議決定の「『強い経済』を実現する総合経済対策」について言及しつつ、日本の大学との提携については、他のケースでもあるような博士課程におけるダブル・ディグリー・プログラムの追求が一案ではないかと述べました。UTPでは、オイル・ターミナルに見立てた開放的な図書館も訪問し、また、日本語学習者が多数いることも確認できたことは今後の交流促進を考えるために有意義ではないかと思いました。

（↓慶應大梅澤教授とUSMセルバクマール教授の訪問）



（↓UTP訪問）



総領事館としては今後とも、日本文化紹介及び学術を含む日本・マレーシア交流促進のために心を尽くす所存です。今後とも、マレーシアで日本を盛り上げていきましょう！

12月以降も、日本とマレーシア（北部6州）との間をより良く繋ぐことによって、日本人の皆様が安心・安全に、誇りを持って、意義深い生活・活動をされるよう、微力ながらも全力を尽くす所存です。今後とも、ご指導・ご鞭撻をお願いいたします。

※以上の見解は、私個人のものです。